

第3次福山市上下水道事業経営審議会（第3回）議事録

- 1 日 時 2021年（令和3年）10月28日（木）
18時30分から21時まで
- 2 場 所 中津原浄水場 水質管理センター2階会議室
- 3 出席委員 9人（委員総数 10人）
小川 智弘
小田 直子
客本 牧子
日下 真吾
佐藤 彰三
堤 行彦
角田 千鶴
寺岡 浩貴
橋本 哲之
（※名前は五十音順）
- 4 傍 聴 人 0人
- 5 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 報告
 - ①水管橋・添架管の緊急点検について
 - (3) 議事
 - ①福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)の見直し（案）について
 - ②前回意見に対する説明について
 - ③投資・財政計画（財政見通し）（案）について
 - (4) 閉会
- 6 配布資料
 - ・第3次福山市上下水道事業経営審議会（第3回）次第
 - ・福山市上下水道事業経営審議会委員及び上下水道局職員出席者名簿
 - ・配席図
 - ・水管橋・添架管の緊急点検について
 - ・福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）（素案）
 - ・中長期ビジョンの見直しのポイントに掲げた「5つの視点」の反映について
 - ・第2回審議会での意見に対する説明資料
 - ・投資・財政計画（財政見通し）（案）について

7 議事録

(1) 水管橋・添架管の緊急点検について

事務局から水管橋・添架管の緊急点検について、点検概要など資料を基に報告した。

(2) 福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)の見直し(案)について

事務局から福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)の見直し(案)について、素案を基に説明した。

その後、次の内容の質疑が行われた。

委員 素案28ページのアンケートを行われたということで、これはどういう風なアンケートのやり方をしたのか。郵送なのか。

事務局 市民意識調査について、基本5年間隔ぐらいの期間で、水道をご利用の方を選定し、アンケート項目を設定し、郵送でこの度実施させて頂いている。

調査内容としては、給水区域内の利用者のうち3000世帯、事業所アンケートは300事業所を対象に、郵送で配布、回収を行っており、昨年10月30日から11月13日までの期間で実施しました。その内市民意識調査については3000世帯のうち1429世帯(47.6%)の方からの回答、事業所については173事業所(57.7%)の回答をいただいた結果になっている。

会長 よろしいか。はい、ほかに何か。

委員 第3章のところで、現状と取り組むべき課題というのがあって、それぞれの項目の最後に課題があるんですが、この課題が項目だけ書かれていて何がどう課題なのかというのが、読む人によってはわかりにくいのではないかと。取り組むべき課題は、項目だけ書くのではなく、もう少し説明があった方がわかりやすいのかなと思ったのだがどうか。

事務局 確かに我々は現状を認識しているので、書いてあることだけでも理解できるが、市民の方からすると何が課題なのかご理解いただけないのかなと思う。これは内部で検討させていただいてどう表現するのがいいのかということを少し考えさせて頂きたいと思う。

会長 よろしくお願ひします。はい、ほかに。

委員 51ページなんですけど、アナログの私が言うと説得力がないが、これからデジタル化というのがやっぱりキーワードになってくると思っていて。例えば、「新たな視点に立った事業運営」という施策になっているが、ここなんかデジタルという言葉が使えないのかと思うのと、それからここに書き込まれていることって「サービスの充実」や「事務の効率化」というソフト面だけなのだが、デジタル技術が活用できたらハード面でも色んなことでスマート化と言うか、そういったこともできるような世の中にしていけないといけない。その辺をもっと書き込んでもいいのかなという風に思った。項目の一覧があるけれど、項目の施策の1つにデジタルとい

う名前を入れるなど、そういう感じがあってもいいのかなと思う。

それからもう1つは個人的な思いだが、現状と課題のところ、26ページの芦田川等の水質保全についての記述があるんですけど、環境に見識を持った方が、河口堰がどうなるのかという思いを持っておられる方が結構いらっしゃるのではないかなと思うが、河口堰のことについては言及しなくていいのかなと。以上2点よろしくをお願いします。

事務局

はい、ありがとうございます。まず、デジタル化のところのお話を頂きました。施策(6)、これは確かに5年前に立てた施策名称ということで、そのまま使っているが、施策名称のところどこまで書き込めるか、タイトルも含めてここは考えさせて頂きたいと思う。ただ実施計画のところでは、「デジタル化の推進」というタイトルはつけていこうかと考えている。

それからハード面の書き込みができないかとお尋ねがあった。我々として、まだソフト面しか書けていないのが実際のところ。当然経費もかかることもあるので、書き込むだけで実施できないものを書くわけにはいかないので、少しその辺りが伝わるレベルの書き込みぐらいを考えていきたいと思うが、ハード面の具体は少し難しいのではないかなと思う。ただ、実際正案するまで時間が3か月ほどあるので、しっかり局内での議論はさせて頂きたいと思う。

それから3-4の「環境への配慮」のところ、芦田川等の水質保全というお話があった。河口堰の話を書いたらどうかということ。これについて、我々も一利水者という立場で工業用水道事業のために河口堰の手前に箕島浄水場をつくって、利用していると認識をしている。どこまで書けるかあるいは書く必要性についても、内部で少し検討というか考えさせて頂きたいと思う。以上。

会 長

今の河口堰の話の中で、図表の3-22の値というのはどの地点の値か？芦田川ということだが、河口堰からきれいな上流側までであるので。2014年に1.4は、図表3-23でいえば「きれいな水」に近いということだが。

事務局

これは、各地点の平均値をとっている。芦田川上流から下流までいろんな地点で採水をして、その合計値が改善しているというのをご覧になっていただくためにこのグラフをつけている。

会 長

平均値？

事務局

はい。平均値。

会 長

今ご指摘のあった河口堰のあたりは、悪い側の数字になっているんじゃないかなと思うが。

事務局

下流にいけばいくだけ、確かにそういった数値になると思う。

会 長

さっきお答えになったように、少し何か検討されるということで、このコメントの仕方ですね、よろしくをお願いします。

それから1点目、デジタル化のところ、スマートメーターの研究ということで書かれているが、具体的にどのくらいまでをこのビジョンの中で検討されるのか。

事務局 先ほど委員の方からあったデジタル化の中に少し書かせていただいている。(P 5 1, 施策(6)「新たな視点に立った事業運営」)次世代の水道システムということで、我々も必要性というのは認識しているが、一番ネックなのが導入するコスト。イニシャルコストが非常に高い。価格が現行のメーターの約10倍近くすると言われていたので、導入する財源の問題があり、そこをクリアするのは少し時間がかかると思う。しかしながら、先行している東京都の事例などもあり、数年すれば価格が低廉化していると思うので、そういったところの時間の中で民間事業者さん、例えば中国電力さんなんかスマートメーターにかなり力を入れていらっしゃるのを知っているから、そういった他の事業者や民間事業者さんのノウハウをしっかりとこの5年間で研究していきたいというのが今の状況です。

会長 はい、ありがとうございます。導入の金額というか値段、メーターが本当に高い。それが広がっていくにつれて下がっていくと思う。このスマートメーターは、非常にデジタル化という意味では色々なことに使えるので、下がっていけばどんどん導入していくという方向で考えるのがいいのかなと私も思う。現状は、ここまでの書き方しかコスト的にできないということ。

事務局 はい、そうですね。

会長 ほかに何か。

委員 52, 53ページの目標の設定だが、この目標設定の基本になる考えの説明が必要なのではないか。例えば、耐震化率がどれも半分(50%)くらいだが、この目標はどういう水準なのかというのが全然見当がつかないので、そういったところの説明は何か入れるべきかなという気がするが、いかがでしょうか。

事務局 はい、ありがとうございます。主な(指標の)内容のところについては、経営比較分析表というのを3章のところを出しており、主要指標がすべてここで網羅されているわけではないが、福山市の状況と他の状況がここで比較ができるという風に捉えている。それを踏まえた上で、今後5年間はしっかり投資すべきは投資をする結果が我々としては、目標設定だと考えているので、なぜそうなのかと少し説明が不十分なところがあるなど感じているので、現状把握を書いた上でそれに対する目標設定という捉え方なので、書き方というか見せ方については少し工夫をさせて頂きたいと思っている。それと考え方も同様と思っているので、考え方を説明した方がいいというご意見だろうと思うので、その辺についても少し考えさせていたいただきたいと思っている。よろしくお願いします。

会長 この数字をどう見るかというのはその通りだと思うので、他都市、類似団体との比較とかいうこともあればわかりやすいということもあるかと思うが。

これは、基本的な目標設定は、(必要な事業を)積み上げた形の成果ということでしょうか。

- 事務局 現在の整備状況から必要な計画期間の投資額を行った場合に、どこまで伸ばすことができるか、それはハード整備の指標であるけれど。それはそういう考え方で作っている。
- 会長 投資・財政計画をベースに目標設定をされているということで、ご指摘があったように他と比べてどうなのかというところでは、何かあれば分かりやすいかなと思う。ご検討いただければいいかなと思う。
ほかに何か。
- 委員 56, 57ページのSDGsのところは非常にわかりやすく、これからのSDGsの取組としていい表だと思うが、主な施策のところ、これをそれぞれ主なページ数と項目数と関連付ける、要はきちっとこの項目でやっているみたいな関連付けることは可能か。
- 事務局 それは工夫できると思う。それは次回までに整理させて頂きたい。
- 会長 ありがとうございます。それでかなりわかりやすくなるかもしれない。やろうとしていることとの繋がりが。他に何か。
- 委員 スマートメーターの話が出たので、電力業界の現状を伝えさせていただく。水道でスマートメーターを取り入れるということになると問題になるのが、電源の問題があると思う。今まで一般的な水道メーターは電源がなくて、クリスタル（パイロット）が回るだけのメーターがあるだけだったのが、今度は電源と電波を飛ばさないといけないということで、新技術が必要になると、それから今セキュリティの問題がある。メーター自体を好き好んで盗む人がある。盗んでそこから情報網に入れる人がいるらしい。どうやって入るのかはわからないが、そういったことの問題が1つ。あとスマートメーターにすることで、電磁波過敏症という方が一定数おられる。電気のメーターは、30分に1回微弱な電波を発して指示数（使用量）とかを判定するというものだが、そういった過敏症の方に対してどのような対応をするのかというのも1つ問題がある。参考にさせていただけたらと思う。
- 事務局 ありがとうございます。これから本当にそういったところをしっかりと研究というか情報も含めて取り入れた上で、導入できる段階になった時には、セキュリティの問題であるとか電磁波の問題をクリアしていく。課題を乗り越えた上で導入ができるのかなというところで、是非参考にさせていただきたいと思う。
- 会長 電力業界の方が進んでいる。スマートメーターについては。今かなり進めておられる？
- 委員 そうですね。6割くらい。
- 会長 水道とセットというのはほとんどまだないか？
- 委員 セキュリティ上、一緒にしていいものなのかどうか。電力業界全部、新電力とか、中国電力だけじゃなくて他社さんとか、全体が関わってくるので、その辺は水道業界が入って来られるかどうなのかという問題があると思う。
- 会長 はい、ありがとうございます。これから検討していくっていうことは方

向性としてはある，ということで見込まれているということだと思う。あとほかに。

委員 SDGsについてあったが，17項目ある中でピックアップした書き方をされていると思うが，水道の水のことに関する事業，例えば3，6，7，9，11，13，14，17とあるが，他の項目にも関わりがあるんじゃないかと思うし，未来共創塾ということで福山市がSDGsの取組をされており，らせん構造で取組を高めていこうとされているので，この部分だけではなくて，他も含めてどういう風に事業を展開していくのかという工夫をしてみてくださいとより分かりやすいかなと思うが。

事務局 はい，ありがとうございます。前回お話を頂き，こういった8つが関連するんじゃないかなと考えている。考える過程の中でも，捉え方で全てが絡むんじゃないかなと思える時もあり，これは確実にここだなと，すごく難しいなと思いながらここへお示しをさせて頂いた。もう1回どこまで範囲を広げられるかも含めて少し勉強させて頂きたいと思う。よろしく願います。

会長 はい。よろしいか。色んなご意見皆さんから頂いた。まだもう少し時間があるということで，検討できるところは検討していただいて，中長期ビジョンについては進めて頂くということにしたいと思う。

【休憩】 19：35～19：42

(3) 前回意見に対する説明について

事務局から第2回審議会での意見に対する説明を行い，その後，次の内容の質疑が行われた。

会長 ご質問いただいてお答えを作ったんですが，いかがでしょうか。

委員 ありがとうございます。一点気になるのは，企業債は，全て自前の収入で償還するんですか。繰入があるんじゃないですか。要は交付税で。何が言いたいかという，借金はあるけど有利な借金であって，全部が水道料金や下水道使用料に跳ね返る部分ではない，ということにはなるのではないかな。

事務局 そうですね。確かに交付税措置もあると思うが。

委員 わかりました。(福山市の地理的条件から，施設整備は他の中核市と比較して)非効率と言われるので，市民が非常に非効率な事業運営をしているんじゃないかと錯覚に陥るのかなという気がするが。借金のすべてが使用料で返すということではありませんよね。国からの支援とか，例えば耐震化の起債は交付税措置があるんじゃないかな。

事務局 市のほうへ交付税算入されているとは思っている。

委員 それが繰入ということで，一般会計からこっちへお金が来ているということ？

事務局 ルールに基づいてにはなるが。はい。

会 長 よろしいか。全体として私の視点としては、投資を積極的にされてきたということで、数字を確認してみたんですが、耐震化に対して投資をされてきたのが1%（1年当たりの管路更新率）。全国の平均が0.7%ぐらい。その分だけは積極的に投資をされてきたというところはあるのかなど。耐震化率は高い、他の類似団体と比べても。それでも1%だから、全部耐震化していこうとすると更新を含めて100年かかってしまう。全国平均でいうと100年以上。そういう状況の中で少しでも耐震化を進めていく方針（基幹管路等を含めて更新する）という意味では、その部分で他都市よりは類似団体含めて高いのは高いので、その分は起債という形で、それに関わる返済という意味で公的資金は基準内で繰入れられるという形で、そういう結果の数字かなど。積極的に投資はされていると思う。

(4) 投資・財政計画（財政見通し）（案）について

事務局から投資・財政計画（財政見通し）（案）について、資料を基に説明した。その後、次の内容の質疑が行われた。

会 長 財政見通しの案について説明を頂きました。いかがでしょうか。目標を決めて資金残高とか企業債残高とかを設定しながら数字を整理したということだが。

委 員 給水人口と給水戸数の関係で、以前もお伺いしたが、給水戸数の中でも空き家のことを前回お話をしたら、「空き家は関係なく給水人口で（水需要を見込んでいる）」ということおっしゃっていたと思うが、給水人口は社人研の推計に基づいて少しずつ減っていくと推計されているが、いわゆる高齢化率がどんどん上がって行って、生産年齢人口が減って行って、人口の数自体は少しずつしか減らないけど、その中の内訳は大幅に変わってくる。これについて、年寄の方はたくさん水を使っているのか、若い人がたくさん水を使っているのかよくわからないが、その辺のところの推計はどのように考えられているのかというのを伺いたしたい。

事務局 はい、ありがとうございます。原単位の統計の仕方というご質問だと思う。現在、我々の方では年齢区分での実態把握はできていない。高齢の方がよく使われるのか、若年層の方がよく使われるのか、これは統計も取れていない。ただ我々が今把握している、生活用、業務・営業用、工場用の業態ごとには、使用実態をつかんでいるので、今回の見込の中に入れてるのは業態のデータをとって、そのデータをベースに見込を立てるというやり方を考えている。将来、年齢ごとのデータが取れる方法が可能になれば、取り入れていくというのでも検討してみたいと思う。今回は入っていないのでご理解いただきたいと思う。

委 員 ある程度実績としてわかる部分はあると思うが、やっぱりその辺が大分変わってくるのでいくらかその辺を考慮されてはと思う。

事務局 前回（ビジョン）より今回（素案）収入が増えて、結果良い決算を迎

えたのは確かなのだが、やはり水需要の予測というのは一番困難である。結果を求める、結果を予測するというのは非常に難しいという実態があるので、それと今新しいご提案を頂いたので、今後どういった見込み方ができるのかを少し考えていきたいと思う。

会 長 はい、よろしく申し上げます。世帯数との関わりも少し出てくるのかなど。核家族化して高齢の世帯と若い人たちの世帯というのがどのくらいの比率で変わっていくのかを（説明することで）、大雑把な見方をすれば、今のお答えにもなるかなど。その辺を検討して頂ければ良いかなど。その世帯がどういう風に変わっていくかという方がもう少しわかりやすいかなど、年齢層を見るよりはと私は思ったのだが。まあ色々ご検討頂ければと思う。ほかに何か。

委 員 素案の1ページの中段に、また、「事業を取り巻く経営環境は…引き続き厳しい状況」だと見込んでいると。今の説明では全く厳しい気がしないんだが。どこかを見直したというのがあると思うが、それを説明しないと何か（今後の事業経営は）バラ色かなって思う。

事務局 はい、ありがとうございます。事業を運営する我々は決してバラ色とは思っていない。やはり今後の更新投資は必要であるし、お金をかけないといけなところは見えているので、企業債をどう借りていくのか、財源をどう確保していくのかと、そうしながら市民サービスをきっちり確保していきたいというところで、結果的に今回良い内容で5年間を過ごせるんじゃないかと思うが、それがずっと担保されているとは思っていないし、しっかりと厳しさを念頭に入れながら経営をしないといけなということ、で、「厳しさ」という言葉はビジョンの中には入れていきたいとの思いはある。

会 長 数値的には厳しくはなっていくという傾向は見えるかなというのはある。数値的には、設定目標の数字としてはクリアすると。その部分で設定目標のところはすごく大事になってくるが、例えば下水道も水道もそうだが、資金残を6か月以上という形で設定をするというところの根拠、これが厳しいものなのか、ちょっと緩めなのかとか、必要な資金残としてどれくらいなのかというところは、ご質問とも関わってくると思う。これが厳しめなのか。そういうことも含めた根拠の部分は整理しておいて頂いた方がいいかと。目標設定のところはクリアできるからまだバラ色だとか、そういうことではないと思うので、その辺がわかりにくい部分なのかなと思う。

事務局 資金残の根拠というのは難しいと思う。特に適正な水準というのが示されているわけではない。現実としては、他市町と比べたら資金を持っていないということである。他市町が適正な水準かどうか不明な点はあるのだが、まず本市としては、企業債残高を減らしていくと。資金については、年間の資金繰りが何とか賄えるといったところでの確保といったところを水準としている。それ以上の資金が確保できるのであれば、企業債残高を減らしていきたいといった考えでの経営を考えている。

会 長 ありがとうございます。資金残をどれだけ持たなきゃいけないのかっていうのは、本当にどこもなかなか根拠が決めづらいというのはあると思う。その事業体の特性によってどれくらい持ってなきゃいけないのか。また設備投資と費用との関わりも出てくるだろうから、その辺の考え方を整理して頂いて報告が必要かなと思う。ほかに何か。

委 員 抜本的な浸水対策ということで、下水道の手城川流域などの内水排除対策の費用がたくさんかかるということだが、これは下水道事業として行う分と、国・県が行う分、市の建設局が行う分とかどんな区別になっているのかお伺いしたいのと、下水道がやっている部分については企業債も増えてくるが、全てが下水道使用料で賄う部分ではないということではよいか。企業債は増えるけれども、それは全部下水道使用料で賄うのではなくて繰入もあるのか。その辺りも少し説明して頂けないか。

事務局 抜本的な浸水対策で上下水道局の下水道の持ち分ということだが、基本的に下水道で実施する部分については、市街化区域の内水を排除するのが下水道の役割ということで取り組んでいる。今お話しが出ました主なものとしては、手城川流域の内水については下水道で排除すると。排除先が手城川となるから受けてもらわないと流れていかないので、河川については県の河川であるため県の方で整備をすると。他の部分についても川に出す、海に出すとそれぞれあるが、そういったところで、基本的には市街化区域に降った内水、それを排除するといった役割を下水道の方で担っている。

事務局 今説明しましたとおりだが、基本的には浸水対策をやる時の国と県と市の役割分担については、それぞれ所管するところへ、芦田川は国が所管しているので芦田川にかかる対策というのは国が行う。県河川、手城川であるとかといったところは県が行う。それに注ぎ込む水路、市街化区域の水路とかそういったものは市が受け持つといった役割分担の中でやるが、ただそれぞれバラバラにやっていたのではなかなか上手く進まないで、平成30年の7月豪雨を受けて、3者が連携をしてそれぞれ有効な事業を考えてやっていくということで今取り組んでいるという状況。3者が寄って計画を立ててそれぞれ取り組んでいるという状況である。

先ほど雨水は下水道使用料で考えるのか、ということがあったが、雨水の対策というのは基本的には税金でやる。汚水の処理は下水道使用料でやる。今行っている浸水対策というのは、税金でやると区分けをして進めているという状況である。

会 長 今ご質問あったように雨水の排除の費用というのがあったが、汚水のように下水道使用料で負担をするということではない。ここだけは明確でよろしいか。それに掛かる費用は一般会計の方から出るという形で。それで投資が増えている部分については、基本的には下水道使用料との関わりはないということでもいいのかなと思う。

委 員 説明資料の最後の企業債残高のグラフが山になっている（計画期間の

企業債残高が増えている) というのは、雨水の関係か。

事務局 はい。特に大きいのは浸水対策、これが影響している。

委員 そうであれば、あの山が例えば手城川流域の浸水対策のために山になっているというイメージになったらマズいかなという気がする。実際には山があるんだけど、その内、下水道使用料で賄うのはどれだけだよ、という見せ方をしないと、浸水対策のために下水道事業会計の(経営が悪くなるような)見え方というのはいかがなものかなという気がする。普通会計では、将来負担比率のような考え方がある。実質下水道使用料等で賄うのは、この全体額とは違う、というのを何かわかるようにした方がいいのかなという気がずっとしているが。

事務局 ありがとうございます。例えば見せ方として、汚水と雨水を分けて企業債残高を示すというやり方はあるのかなと思うので、これは検討させていただきたいと思う。

会長 そうですね、分けるっていうことができるような気が。難しいか？

事務局 考えてみる。

会長 ではご検討頂いて、雨水と汚水を分けるという形で示していく、検討するというところで。ほかには。

委員 投資・財政計画というのがあって例えば、一般の企業だったら5か年の経営計画で、必ず5か年でいくら設備投資するかという指標が出てくるはずなのだが、設備投資の指標というのは上下水道局にはなぜないのか。いくら設備投資してというのを、市民の安全安心を守るインフラなんで、それにどれだけ積極的に投資しているというのは指標としてあっても良いと思ったんだが。企業だったら当たり前設備投資をどれくらいするのかと明らかにしているのもその辺の考えを。

事務局 設備投資の額については、(71ページ) こういった表の中では示しているが、目標設定といったところには示していない。ここは経営的な面での指標にしている。それに成り代わるかわからないが、5章のところ(51, 52ページ)には耐震化率であるとか、設備投資を行ったことによって指標が改善するところはお示ししている。上下水道事業はライフラインであるので、こういったところを示すのが適しているのかなと思う。

会長 よろしいか。水道・下水道では表現の仕方としてはあまり使われてはいないんですけど何かご意見ありますか。

事務局 先ほどの建設投資については、基本的には資本的支出のところの建設改良費の年度ごとの数字は出している。その見せ方については今後検討させて頂きたい。

会長 はい、ありがとうございます。少し検討いただくということで、少しわかりやすい形でということをお願いしたいと思う。他に何か。

委員 資料の19ページで水道事業の資金残高がずっと書いてあるが、これがどこから出てくるのか。表のどこを足してもこの数字にならない。いろんな調整だったり、減価償却費だったりもろもろの調整、ここには資

本的収入と資本的支出とあるが、そういったもろもろの調整をして資金残高が出ているので何かわかりにくいのかなと。一般に企業会計でいけば、いわゆるキャッシュフローから投資したキャッシュフローと財務的なキャッシュフローを引いて資金残高が出ると。いきなり出ているのでわかりにくいのかなという気がする。どういう風に資金残高を算出されたのかなというのがもう少しわかりやすくなればいいのかなと思う。

事務局 はい、ありがとうございます。今委員おっしゃられたのは抜粋したパワーポイントの方の資料だと思う。本体のビジョン素案の方で76ページをご覧いただきたいのだが、ここにはもう少し詳しく収益から費用、そこから発生する利益、資金という風に書かせて頂いている。このくらいの内容で公表していきたいと思っているが、委員のご意見はもう少し詳しくという意味に捉えたらよろしいか。

委員 純利益の中に、例えば事業費用の中に減価償却費が入っている。恐らく資金の計算の時には無視していると思うし、あと長期前受金戻入とか多分抜いていると思うが、その辺がわかりにくい。上の表を足してもこの資金残高にならないので、その辺が少しわかりにくいのかなという気はする。

事務局 見せ方のところなので、工夫できる部分は取り入れさせていただきたいと思う。ありがとうございます。

会長 見せ方という意味で工夫を検討していただきたいと思う。ほかによろしいか。よければ財政見通し（投資・財政計画）についてはこれで終了ということにさせて頂く。

それで、次回審議会を12月開催ということでこれから調整をさせて頂くことになる。今日、ビジョン、財政見通し（投資・財政計画）についてたくさんご意見頂いた。宿題ということで検討をお願いするというのもたくさんあったので、12月の審議会の前に少し事前に部会という形で、一旦チェック、確認させていただいて、それを12月の審議会資料という形をとらせていただければと。それと答申案の原案をつくらせていただいて、それをまた検討しないといけない。それも部会の方で検討させて頂くということで、部会を設置させて頂きたい。

これは規定でいくと会長が必要と認める時に設置をして、委員を指名するとなっている。まず部会を設置させていただくということでよろしいか。

(特に異議なし)

よければ設置させて頂く。次の審議会までに部会を開催するというようにしたいと思う。

それで、部会のメンバーなんですけど、私の方で指名ということなので、私と副会長と学識経験者ということで佐藤委員と日下委員でお願いしたいと思うがよろしいか。

(特に異議なし。部会の委員は、堤会長，小田副会長，佐藤委員，日下委員の4名が承認された。)

それでは，部会を設置して進めさせて頂く。以上が今日の議題となるので，これで第3回福山市上下水道事業経営審議会を終了する。

終了 21:00